

ばれっと

2010
8月
No.132

P2~3 **すぽっとらいと**

『World Open Heart (ワールドオープンハート)』

いろいろな人がともに生きる社会をつくる



「トーキングスティック」とは、「わかちあい」で使われる道具です。スティックを持っている人だけが話すことができ、話し終えたら次の人へ渡します。話したくなければ、そのまま次の人に渡して大丈夫です。

この写真はWorld Open Heartさんが毎月開いている「わかちあいの会」で使われているもので、手触りがよく、心が落ち着きます。今まで話せなかったことを話すための、心の鍵のような役割をしているのかもしれないね。

<目次>

-
- P4... **サポちゃんで行く骨づろ施設見学！ 仙台国際センターの巻**
... **サポ本を読もう！『打ち水大作戦のデザイン』**
 - P5... **市民活動お役立ち情報『オリジナルグッズで広報&資金調達』**
 - P6... **お知らせ サポセンカレンダー**

すぽっとらいと

◆仙台市内で活動している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

いろいろな人がともに生きる社会をつくる World Open Heart



▲代表の阿部恭子さん

全国に先駆けて犯罪加害者家族支援を行い、注目が集まっているWorld Open Heart (以下、WOH)。今回はWOH設立のきっかけ、マイノリティ支援と現在の中心事業である犯罪加害者家族支援について紹介します。お話をしてくださったのは、代表の阿部恭子さんです。

●社会からはじき出されてしまった人々に 光を当てたい

「大学院のゼミで、自殺対策について調べたのがきっかけでした」。こう阿部さんは切り出しました。日本の自殺者は年間3万人を超えています。自殺の原因を調べていた阿部さんは、「マイノリティであることが自殺に深く関係しているのではないか」ということに気づきます。海外では先住民族やセクシュアルマイノリティ(=性的少数者)など、「マイノリティ」の自殺が多いというデータがあるそうです。日本ではそのような調査をしたデータがないのですが、阿部さんは実感として捉えていました。

「マイノリティ」とは、「社会的少数者」と訳され、外国籍市民や障がい者、ホームレスなどが含まれます。これらの人々は、差別や偏見を受けやすく、社会から疎外されてしまったり、孤立感を感じたりします。少数であるがゆえに弱い立場となることもあり、社会的弱者とも言えます。

自分の責任ではないのに、マイノリティであるがゆえの不利・差別・偏見が原因となって自殺にいたるのであれば、マイノリティの人権を守ることが自殺防止につながるのではないかと阿部さんは考えました。ありのままの自分を認めてもらえる社会であれば、孤立することもなく生きていくことができると思ったのです。

団体を作ろうと考えた頃には、自殺対策に取り組む団体が増え、大きな規模の団体も出てきました。そこで、マイノリティに特化した支援をしようと、2008年8月にWOHを立ち上げました。

● 加害者家族支援のはじまり

立ち上げたばかりの頃、自殺対策の項目について調査をした結果、DV、サラ金などの金銭問題、うつ、犯罪被害というキーワードが浮き彫りになりました。これらの自殺の原因となるものについて、セーフティネットができれば自殺は防げるとメンバーで話し合っていた時に、犯罪被害者とその家族の支援団体はあるけれど、犯罪加害者家族の支援はないと気づき、犯罪加害者家族支援事業がスタートしました。他団体と連携し、犯罪加害者家族対象のわかちあいの会を開くことにな

り、これが地元紙でとりあげられると、続いて他紙からの取材が立て込みました。「犯罪加害者家族支援に取り組んでいるのはWOHしかいない」と言われたので、できる限り取材に応じ、困っている人へWOHの情報が届くようにしたいと考えているそうです。

●ニーズのない支援はありえない

WOHの加害者家族支援は、個別相談とわかちあいの会が両輪となって行われています。昨年12月から今年3月にかけて、WOHはこれまでの相談者を対象にしたアンケート調査を実施し、どんなことに困ったか、どんな支援が欲しいかなどを訊きました。その結果、一番困ったことは「事件について安心して話せる人がいなかった」という回答で、全体の6割を超えていました。また、「同じような体験をした人たちと話せる環境が欲しい」という回答があったそうです。これらは、WOHの個別相談とわかちあいの会が必要である事の裏付けでした。さらにこの調査で「被告となった家族の公判を傍聴する時の付き添いが欲しい」という声も約半数あったため、家族が希望する場合には付き添いも行うことにしました。

今後も実態調査は大事にしていく考えとのこと。「この調査ではまだ回答数が少ないので、もっと多くの声を聞く必要があります。また、ニーズに合った活動をすることが大事です。困っているからサポートが必要なのです。調査することで新しい事業が生まれるかもしれませんね」。

●マイノリティの立場で考えてもらいたい

犯罪加害者家族の支援は他団体では行っておらず、ニーズもあるので現在事業のほとんどを占める状況になっています。しかし、WOHは犯罪加害者家族に限らず「マイノリティのための団体」という想いをもち続けています。

いつ自分も当事者になるか分かりません。WOHは、マイノリティゆえの悩みや生きづらさを知るイベントや、マイノリティの立場を疑似体験し、当事者の気持ちや必要だと思う支援を参加者同士で話し合うワークショップなど、市民向けの啓発イベントも開催しています。

WOHが目指すのは、「共生社会」。いろんな人が、共に生きることができる社会です。マイノリティであることによって、住んでいる地域から出て行かなければいけない状況になることが多いのが今の現実です。マイノリティについて知ってもらうこと、理解してもらうことによって、地域で受け止めることができ、そこに住み続けることができるようになります。そのような社会の実現を目指して、WOHは活動しているのです。



▲WOH主催のセミナーの様子

●ネットワークがセーフティネットになる

今後の目標をお聞きすると、阿部さんは「WOHの活動を通して、地元に貢献したい」とおっしゃいました。

1つの団体にできることは限られているので、いろいろなマイノリティが存在する中、WOHがすべてをカバーすることは不可能です。そのため、それぞれのマイノリティを支援している団体と連携することで、よりよい支援先へつなげる体制を作りたいのだそうです。その団体同士のネットワークがセーフティネットとなり、社会からこぼれ落ちてしまう人々をなくすことができます。

また、県外でも加害者家族支援団体の設立が始まっているので、「仙台モデル」としてWOHの研修のノウハウやマニュアルなどの情報を伝えることが必要になっています。全国規模のネットワーク会議ができていますので、それを維持・拡大し、こちらのネットワークでも「どこかで受け止め、よりよいところへつなぐ」体制にしていきたいそうです。

★★ 取材を終えて

自分と同じような人や、似た人がいないと何か心細い感じがするものです。たとえ自分と違う人たちばかりでも、「それでいいんだよ」と受け入れてもらえれば、心が軽くなりますね。人権を簡単な言葉で表現すると、自分らしく生きる権利なのではないかと感じています。自分らしく、いろいろな人とともに生きていける社会の一員になるため、多様な人々がいる現実を知るところから始めようと思いました。 (担当：菅野 祥子)

<団体情報>

World Open Heart

「市民ひとりひとりが心を開いて、自分らしい生き方を選択できる社会」を目指している。社会的差別や排除によって、本来の力を発揮できない状態にある社会的少数者や弱者を支援していく活動を行う。

・設立：2008年8月

・活動内容

1. 犯罪加害者家族の支援
わかちあいの会
個別相談
裁判所などへの付き添い
2. 「マイノリティでもこわくない」
マジョリティ（多数派）とマイノリティの関係に焦点を当てたイベント。

■ 連絡先

〒980-0812

仙台市青葉区片平1-1-3-701

TEL：090-5831-0810

HP：http://www.worldopenheart.com/

mail：world_open_heart.08@docomo.ne.jp

<ミニ情報>

「わかちあいの会」は毎月1回開催

「わかちあい」とは、同じような体験を持つ人同士が集まり、お互いの気持ちを話すことをいいます。これまで誰にも言えなかった感情を話すことで、気持ちが楽になったり、孤独感が和らいだりする効果があるといわれています。

WOHのわかちあいの会は、罪の大小は関係なく、家族の心にフォーカスして進められます。会の進行をするのは、ファシリテーター講座を受けたWOHスタッフです。終わりにひとこと言ってもらえると、「話せた」ことにびっくりした、という感想がとても多いそうです。

<WOHの「わかちあい」のルール>

- ・加害者家族の方が対象です。
- ・事件の詳細を話す必要はありません。
- ・本名を言う必要もありません。
- ・話したくなければ、パスできます。
- ・発言に対して批評・批判はしません。
- ・話したことは外部に漏らしません。

参加希望の方は電話・メールでWOHにご連絡ください。

サポちゃんで行く **骨** プロ

『国際センター』の巻

仙台に情報の背骨を通すプロジェクト（通称：骨プロ）とは？

市民による情報の受発信を支援し、市民活動に関する情報を多くの市民に届けるため、サポセンを含め仙台市内の11の公共施設が協力して行うプロジェクトです。このコーナーでは、各施設で「骨プロ」がどのように活用されているかをご紹介します。

仙台国際センター
仙台市青葉区青葉山
(無番地)
Tel:022-265-2211
Fax:022-265-2485

「仙台国際センター」(以下国際センター)は、国内外多くの方に出会いの場として利用され、学術・文化・経済といったさまざまな分野での交流に貢献している施設です。中でも交流コーナーは、仙台のみなさんと海外をつなぎ、海外から来たみなさんと仙台をつなぐ、情報や文化の交換と交流のためのラウンジとして、誰でも自由に利用できます。今回は、交流コーナーご担当の栗原(くわはら)文博さんにお話を伺いました。

「チラシに少しでも外国語が入っていると外国の方の反応が良いですよ。特に母国語が嬉しいようですね」と教えていただきました。



▲骨プロマークで飾りつけられた骨プロラック

● 沢山の情報を提供したい

国際センターは、2009年1月から骨プロに参加しています。骨プロラックは、1階の交流コーナー入口に設置されていました。

国際協力・多文化共生の市民活動が年々増加しているため、支援の一環として、骨プロを通じて、市民活動団体の情報をより沢山提供していきたいとの思いで参加したそうです。

● 交流コーナーってどんなところ？

交流コーナーには、「相談・情報提供カウンター」「交流コーナーギャラリー」「図書室」「資料コーナー」「掲示板」などの機能・サービスがあり、目的によって使い分けられるようになっています。中でも、一番のうりは「掲示板」で、語学交流や友達・ボランティア募集などの情報がいつも満載です。

● 複数カ所に配架

正面玄関に入って右奥にある交流コーナーの入り口に骨プロラックがあります。

「骨プロチラシの中でも、特に国際交流につながるチラシは、骨プロラックだけでなく、交流コーナーのあちこちに配架するようにしていま

海外に興味のある方や国際協力・交流をしたい方におすすめの場所です。

(担当：伊藤 香)

今月のサポ本

『打ち水大作戦のデザイン』

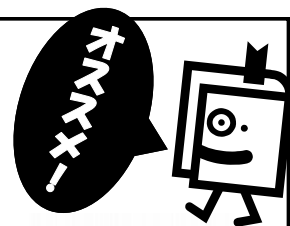
「打ち水大作戦」という名前を聞いたことがありますか？ある真夏の1日、各地で大勢の人が集まり、同じ時間に一斉に打ち水することによって気温を2℃下げようという試みが「打ち水大作戦」です。

この本では、「打ち水大作戦」の誕生から現在に至るまで、地域とNPO、参加する人たちが協力してきた軌跡を、写真集？と思えるようなたくさんの写真とともにオールカラーで紹介しています。

みんなが楽しみながら環境を考え、参加できるようデザインされた「打ち水大作戦」は、今では海外でも注目され、世界に広がり始めています。

打ち水に使用する水って？どんな効果があるの？問題になったことは？など、打ち水に興味を持った人はもちろん、お祭り好きの人、地域を盛り上げたい人、環境を考えたい人などにおすすめの1冊です。

(担当：能藤 玲子)



編集：打ち水大作戦本部
発行：インプロGRESS
定価：1,575円(税込)

■この本は「E まちづくり」にあります。

オリジナルグッズで広報&資金調達

近頃は市民活動団体の中でも、オリジナルグッズを製作しているところが増えてきました。仙台のあるイベントでは、運営資金の半分近くをグッズとドリンク販売でまかなっているそうですよ。

「活動を広めたい」「資金調達の幅を広げたい」と考えている市民活動団体のみなさんに、オリジナルグッズの作り方を紹介します。

●目的は「広報」か「資金調達」か

市民活動団体がオリジナルグッズを作る場合、大きく分けて2つの目的があります。1つは、グッズを広く配布して活動を知ってもらう「広報」のため、もう1つは、グッズを販売して活動資金を得る「資金調達」のためです。「広報」が目的ならば、多くの人の目に留まるものである必要がありますし、「資金調達」が目的ならば、「売れるもの」であることが重要です。

●作る前に気をつけること

実際に製作する前に、どんな人を対象にするのか、その人たちはどんなニーズを持っているのか、よく調査しましょう。実際にどこで販売できるのか、販売ルートを想定しておくことも忘れずに。



●何をどこで作るか情報収集

「何を作ればいいか思いつかない」「どこで作ればいいのかわからない」という場合は、インターネットが便利です。作りたいものが決まっていない場合は「オリジナルグッズ 製作」「ノベルティ」「販促」などのキーワードで検索します。例えばバッジを作りたいなら「バッジ 製作」で検索すると、たくさんサイトを見つけることができます。インターネットが苦手な方は、電話帳を活用したり、グッズ製作をしている業者に直接問い合わせしてみるのも一つの手です。オリジナルグッズを作っている他の団体にきいてみるのもいいですね。

また、グッズによって、製作できる最低ロット(数量)が異なります。大量に在庫を抱えてしまうと、製作費が無駄になるばかりか、その保管スペースも考えなくてはなりません。自分たちで準備できる金額の範囲内で製作することも大切です。

定番のオリジナルグッズを表にあげてみました。グッズの特徴を参考に、みなさんもオリジナルグッズ作りに挑戦してみてください。(担当：太田 貴)

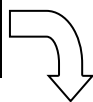
<定番のオリジナルグッズ>

グッズ	製作方法		コスト(送料別)	最小ロット	注意点
Tシャツ	自作	市販品にアイロンプリントで転写、シルクスクリンなど。	アイロン用紙 3枚500円～ Tシャツ 1枚200円～	1枚～	デザインによって販売数が左右される。かさばるので在庫に注意。アイロンプリントの場合は綿100%の市販品を選ぶ。
	業者	プリント業者などに注文。手書き可の業者も多い。	1枚900円～	1枚～	
ポストカード	自作	パソコンで原稿を製作してプリントアウト、シルクスクリンなど。	はがき用紙 50枚500円～	1枚～	デザインによって販売数が左右される。単価が安いので大量に販売しないとメリットがない。
	業者	プリント業者に注文。	1枚30円～	100枚～	
バッジ	業者	プリント業者やバッジ製作の専門業者に注文。手書き可の業者も多い。	缶 1個50円～ ピン 1個300円～	缶 30個～ ピン 100個～	デザインによって販売数が左右される。ピンバッジは一部のコレクターには人気があるが缶バッジ・ピンバッジともに普段使いする人は少ない。
タオル	業者	専門業者に注文。名入れタオルなら注文すれば簡単にできる。	1枚200円～	300枚～	かさばるので在庫に注意。
煎餅	業者	専門業者に注文。	焼印代 21,000円～ 煎餅 2枚53円～	—	賞味期限があるので売れ残りに注意。焼印を製作するので文字数やデザインが制限される。

※コストは目安です。最小ロットで製作した場合の費用を掲載しています。基本は、製作数量が多くなるほど、1つ当たりのコストは下がります。



団体のPRやイベント告知でお悩みの方
グッズ販売で収益につなげたい方



NPOステップアップ講座Step2「グッズde活動PR」

2010年12月15日(水) 19:00～21:00

アドバイザー：太田 貴

(サポートセンタースタッフ・市民活動アドバイザー)

■お詫び

ばれっと7月号(6月30日発行号)に掲載した、人材育成事業(5p)の内容に間違いがありました。正しくは下記の通りです。

<人材育成事業 の記事>

5p 年間スケジュールの

「NPOマネジメント相談」日程

×誤 9/15(木) ○正 9/15(水)

お知らせ ●○●

NPOステップアップ講座2010 ～ぐんぐん伸びる情報発信力の3Step～

今年のNPOステップアップ講座では、団体の情報公開による信頼の獲得や活動の拡大につなげることを目的に「情報発信」をより強化できる3Stepで講座を開催します。

団体の活動のPR、イベントの告知など情報発信に必要なさまざまなツールの活用法を学びませんか。

Step1「ブログ de 情報発信」(8/26)

Step2「グッズ de 活動PR」(12/15)

Step3「報告書 de 情報公開」(2/24)

Step1 「ブログ de 情報発信」

- 日時 2010年8月26日(木) 19:00～21:00
- 会場 仙台市市民活動サポートセンター
6階 セミナーホール
- 対象 ブログによる情報発信をしたい団体や、より活用したいと考えている団体
- 参加費 500円 (定員30名・事前申込必要)
- アドバイザー 小川真美
(特活) せんだい・みやぎNPOセンター事務局次長

8月 サポセンカレンダー ●○● <申込み> TEL 022-212-3010

日時	イベント内容	会場	料金
8月17日(火) 14:00～16:00	○こらぼん協働相談所 行政と市民活動団体・NPOの協働について相談を受け付けます。 1団体1時間程度。	研修室1 (3F)	無料 (事前申込必要)
8月26日(木) 19:00～21:00	○NPOステップアップ講座「ブログ de 情報発信」 ブログを活用した、効果的な情報発信のコツを学びます。 ※ブログ作成講座ではありません。	セミナー ホール (6F)	500円 (事前申込必要)

仙台市シニア活動支援センターからのお知らせ

<申込み・問合せ> TEL 022-217-3983

日時	イベント内容	会場	料金
8月24日(火) 18:00～20:30	◆棚卸しサロン 活動の実践と仲間づくりにつながる、学びと交流の場です。棚卸しワークショップを行い、BIG名刺を作ります。	研修室5 (4F)	500円 (事前申込必要)

事例集発行!

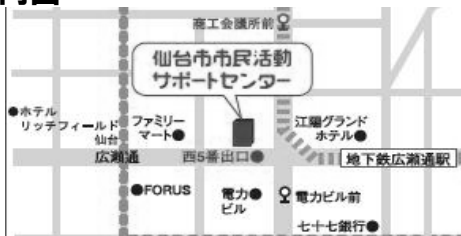
「人生再設計のススメ」～セカンドライフの一步 あなたはどう踏み出しますか?～

シニア活動支援センターの利用者の活動事例と、一步の踏み出し方のヒントについてまとめた冊子を発行しました! お問い合わせは、022-217-3983まで。

■ 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

■ 案内図



○当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車でお来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注)路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

○ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

[最寄のバス停]電力ビル前、商工会議所前

[地下鉄]広瀬通駅下車、西5番出口すぐ

■ 開館時間

○平日 午前9時～午後10時

○日曜・祝日 午前9時～午後6時

■ 休館日のお知らせ(施設点検等のため)

8/25

■ 編集後記 ◆現在サポセンでは、団体さんに作っていただいた七夕飾りとさをり織りを飾っています。短冊もご用意していますので、ご来館の際にはぜひ願い事を書いてください。(菅野)

◆すぼとらいとに登場したWorld Open Heartの阿部さん。サポセン初来館のときに、人権系の団体について熱心に調べていた姿が印象的でした。(太田)

発行: 仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日:2010年7月30日

編集:特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人:菅野祥子 太田貴

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間:2010年4月1日～2015年3月31日]